

第1回病害虫発生状況調査(速報)

6月21日に美方郡内24ヶ所の調査ほ場にて病害虫発生状況調査を行いました。
その結果をお知らせします。

〔 病 害 〕

イモチ・紋枯病等の発生は見られませんでした。

〔 虫 害 〕

- ・ 山間部で、イネミズゾウムシ発生と葉の食害が見られました。

〔 対 策 〕

- ・ 箱施用剤を処理していれば、現在のところ防除の必要はありません。
今後の発生状況に注意してください。

◆水管理について（分げつ数に注目）

- ・ 例年と比較すると、生育はやや遅れ気味ですが、分げつが十分に確保できているにも関わらず中干しに入っていない田を見かけます。茎数が15本程度確保できた田は、ほ場の条件に合わせて中干し、溝切りを行いましょう。
- ・ 深水管理しているほ場で下葉が黄色に変色している稲を多く見かけました。
原因としてガスの発生により根が弱っていることが考えられます。まだ分げつが確保できていないほ場では、間断だん水を心がけましょう。

◆気温と天候によってはイモチに注意！

梅雨に入り気温が高く推移しており、窒素肥料が効き始めて葉色が鮮やかに出始めています。それに加えて苗箱に使用した薬剤の効果が切れ始める頃に高温多湿の状態が続くと、イモチ病が発生する可能性があります。今後の天候の状況を見極め、ほ場をよく観察して発生を抑えましょう。

◆今からはじめるカメムシ対策

カメムシによる斑点米を防ぐ方法は適期防除を行うことに加えて、カメムシの好むイネ科の雑草を田んぼの近くから減らすことが大切です。

畦まわりの草刈をすることによって、カメムシの好むイネ科の雑草（エノコログサなど）が穂を出さないように、こまめに管理しましょう。

また、田んぼの中にヒエが発生するとカメムシを誘引することとなりますので、ほ場内の雑草にも注意しましょう。